

2023年3月期(第51期)
第2四半期
決算説明会

2022年11月11日

株式会社日本エム・ディ・エム
代表取締役社長 大川 正男



証券コード:7600

将来の見通しに関する記述



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社の主要製品



人工股関節



人工膝関節



骨接合材料



脊柱固定器具

-目次-

1 . 2023年3月期 上半期業績結果	P. 4	2 . 2023年3月期 修正後通期業績予想	P.18
- 連結売上高	P. 4	- 連結損益計算書	P.18
- 連結損益計算書	P. 5	- 主要品目別連結売上高	P.19
- 主要品目別連結売上高	P. 6	- 通期業績予想値(前回)対比	P.20
- 日本国内売上【人工関節】	P. 7	- 下期の販売戦略	P.21
- 日本国内売上【骨接合材料】	P.10	3 . Topics	P.22
- 日本国内売上【脊椎固定器具】	P.11	① 国連グローバル・コンパクト(UNGC)への署名	P.22
- 米国売上	P.14	② TCFDに基づいた情報開示(GHG排出量削減)	P.23
- 米国売上【人工関節・製品別】	P.15	// TCFDに基づいた情報開示(リスクと機会)	P.24
- 前年同期営業利益比較分析	P.16	③ 中国事業の状況	P.25
- 第2四半期業績予想値差異	P.17	④ オーストラリア事業の状況	P.26

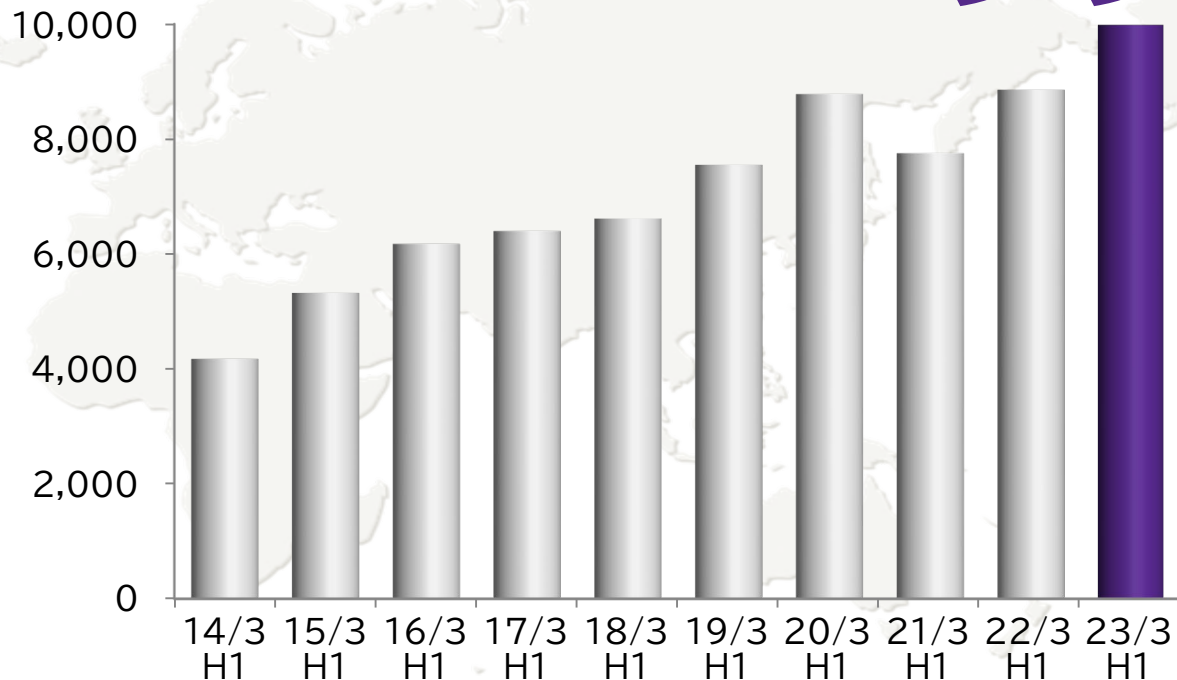
連結売上高

(Millions of yen)

22/3 H1 + 12.8%

99.8億円

※収益認識基準適用後



2期連続の2桁成長
上半期で最高売上高

H1前期比

日本 + 6.2%

米国 + 23.3%

連結損益計算書

(単位:百万円、%)	23年3月期 H1		前年同期比増減		22年3月期 H1	
	実績	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	9,989	100.0	+1,131	+12.8	8,858	100.0
売上原価	3,370	33.7	+514	+18.0	2,856	32.2
販管費	5,691	57.0	+748	+15.1	4,943	55.8
営業利益	927	9.3	▲ 131	▲12.4	1,058	11.9
経常利益	916	9.2	▲ 126	▲12.1	1,042	11.8
四半期純利益※	721	7.2	▲ 281	▲28.1	1,003	11.3

※親会社株主に帰属する四半期純利益

主要品目別連結売上高

(単位:百万円、%)	23年3月期 H1		前年同期比増減		22年3月期 H1	
	実績	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内売上	5,921	59.3	+325	+5.8	5,596	63.2
人工関節	2,226	22.3	+80	+3.7	2,146	24.2
骨接合材料	1,922	19.2	+150	+8.5	1,772	20.0
脊椎固定器具	1,596	16.0	+138	+9.5	1,458	16.5
その他	176	1.8	▲43	▲19.6	219	2.5
米国売上※	4,184	41.9	+792	+23.3	3,392	38.3
人工関節	4,167	41.7	+788	+23.3	3,379	38.1
脊椎固定器具	17	0.2	+4	+28.7	13	0.2
売上控除前小計	10,106	101.2	+1,118	+0.0	8,988	101.5
売上控除※3	▲116	▲1.2	▲4	▲8.9	▲130	▲1.5
合計	9,989	100.0	+1,131	+12.8	8,858	100.0
自社製品売上高	8,118	81.3	+967	+13.5	7,151	80.7
※USドルベース(千ドル)	31,351		+570	+1.9	30,781	
※換算レート(円)	133.47		+23.26		110.21	

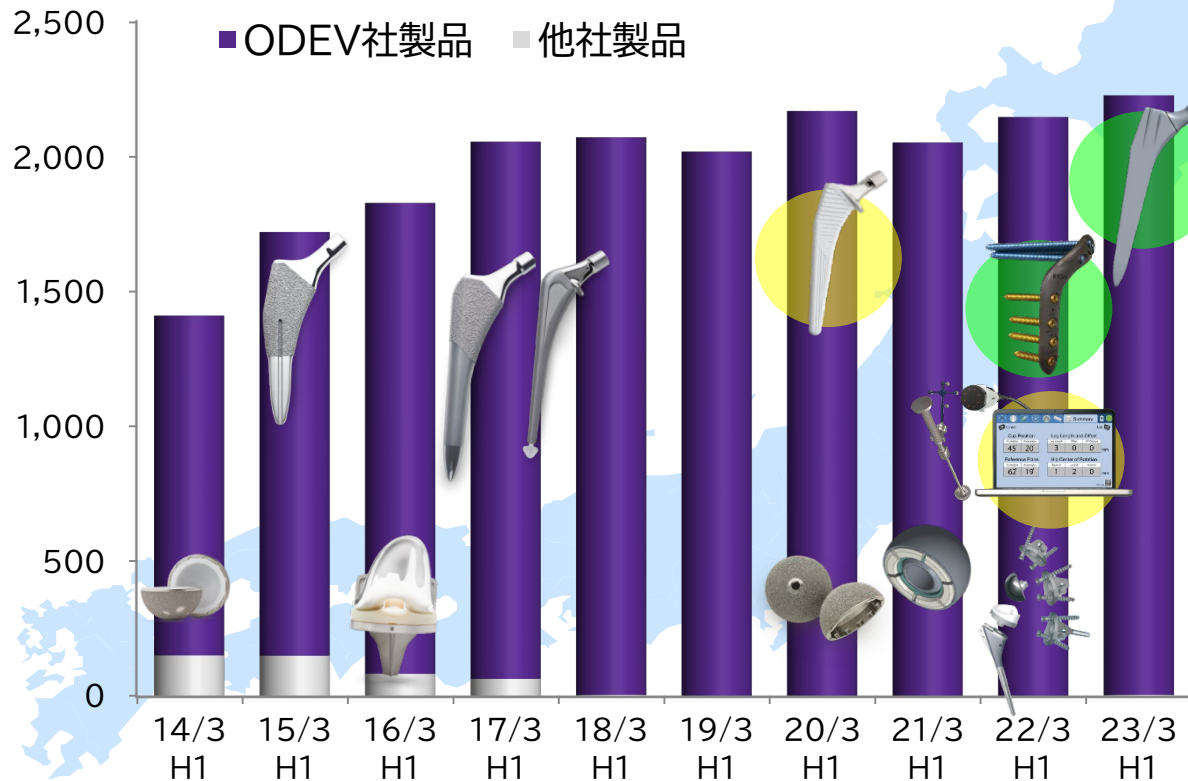
日本国内売上【人工関節】



(Millions of yen)

22/3 H1 +3.7%

THA※**堅調**



※ Total Hip Arthroplasty:人工股関節置換術

【プラス要因】

- Entrada® Hip System高成長
- Intellijoint HIP® ナビゲーションシステム 導入拡大による相乗効果

【マイナス要因】

- 人工股関節の償還下落影響大

新製品販売開始

SecuAlign HTOプレート システム※
(2022年3月)

※ High tibial osteotomy:高位脛骨骨切り術

Promontory ヒップ システム
(2022年9月)

日本国内における人工股関節売上高の成長要因



人工股関節置換術用手術支援システム 【Intellijoint HIP®ナビゲーションシステム】

当社製品



手術支援
システム

日本国内における人工股関節製品の販売拡大



Intellijoint Surgical Inc.(カナダ)社製
【Intellijoint HIP®ナビゲーションシステム】

- 人工股関節置換術の際に、寛骨臼コンポーネントの角度、大腿骨ステムの脚長差など、インプラントの適切な設置位置を確認するための手術用支援システム。
- 手術支援システムの使用により、インプラントの設置精度の向上、手術時間の短縮に寄与していると評価されている。

人工股関節新製品【Promontory ヒップ システム】



【Promontory ヒップ システム】販売開始(2022年9月)

- システムの断面形状が長方形で、断面の角が大腿骨の髓腔に噛み込むことで強固な固定が期待できる
- 大腿骨の形状や骨質に左右されず、幅広い症例に適応が可能
- 脆弱骨の股関節疾患を対象とした人工股関節置換術による治療領域において、当製品の適応症例が拡大し、国内における人工股関節製品の販売拡大につなげる



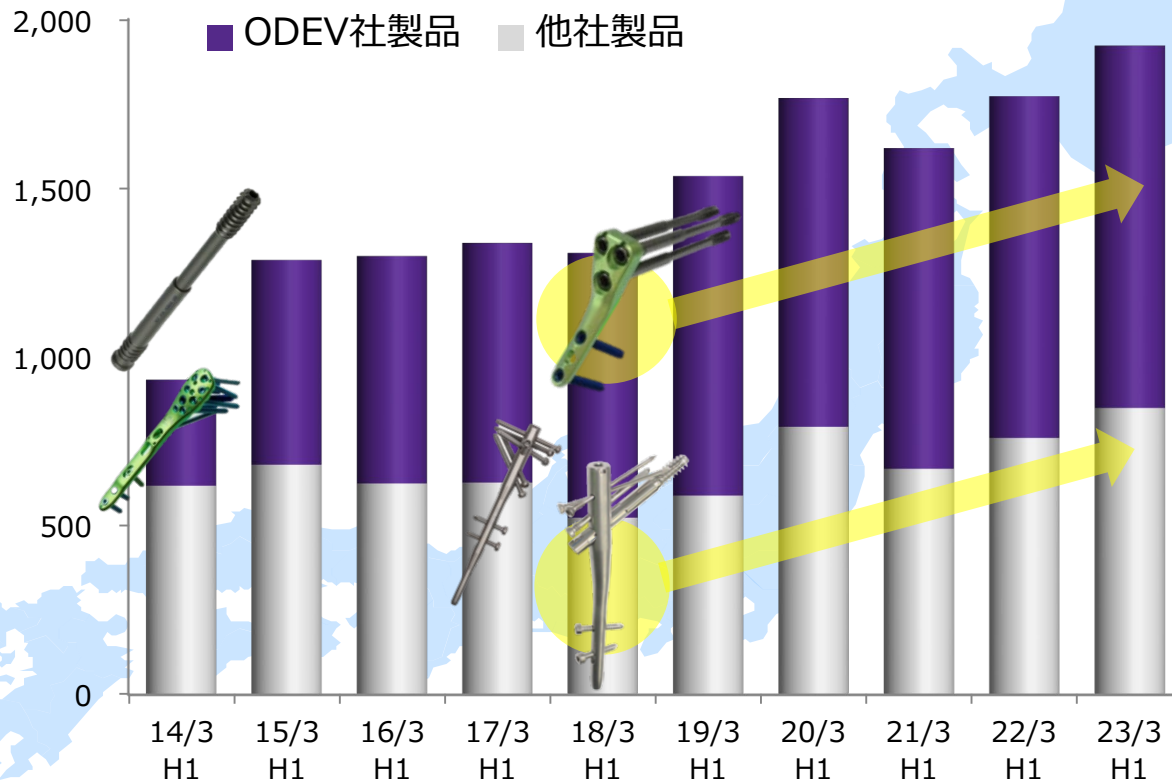
ODEV社製
【Promontory ヒップ システム】

日本国内売上【骨接合材料】



(Millions of yen)

22/3 H1 +8.5%



大腿骨頸部転子部
骨折治療製品

ODEV社製品 PHS
&

他社商品 ASULOCK

2桁成長

日本国内売上【脊椎固定器具】



(Millions of yen)

22/3 H1 +9.5%

ODEV社製品 **Pisces**

スピナル システム

&

他社商品 **BKP**

(KMC Kyphoplasty システム)

2桁成長

新製品(商品)販売開始

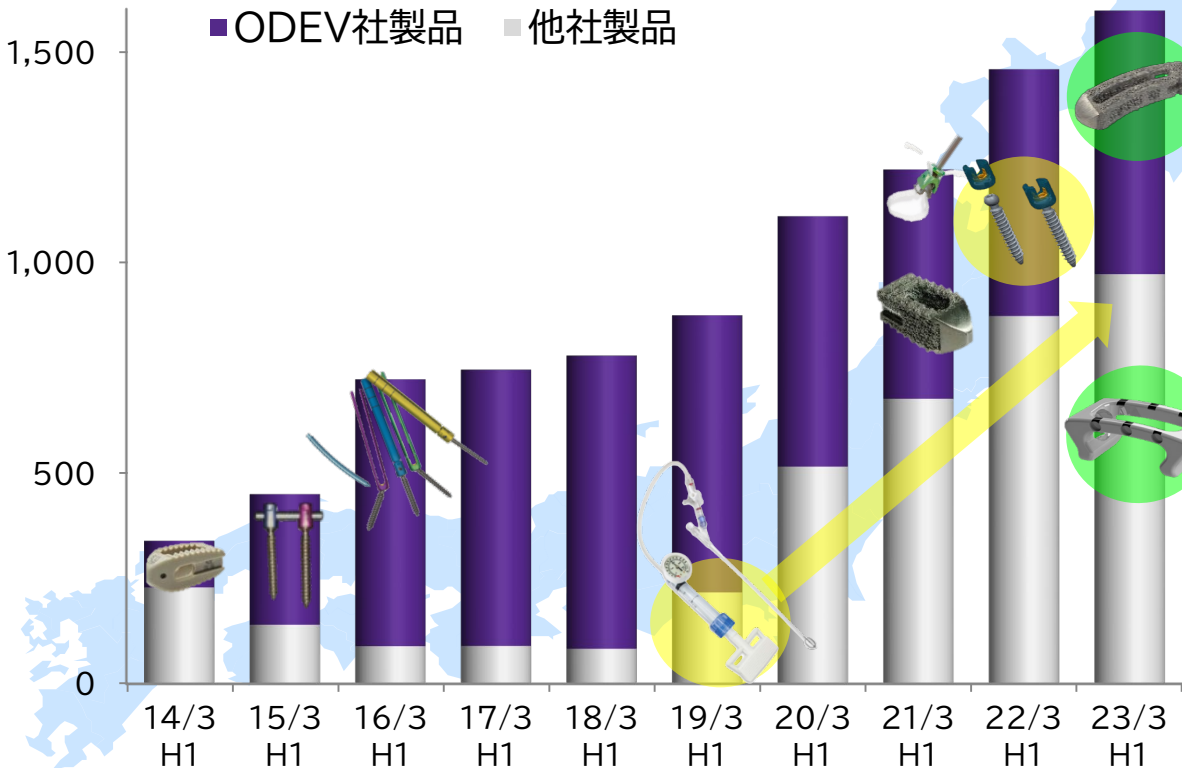
Vusion Ti3D ARC ケージ

(2022年7月)

Lynx α プレート

(2022年8月)

■ ODEV社製品 ■ 他社製品





【Vusion Ti3D ARC ケージ】販売開始(2022年7月)

- 脊椎固定術の際に使用される椎体間固定用インプラント
- 海綿骨を模したポラス構造と連通気孔を有し、安定した固定、早期の椎体間の骨癒合が期待できる
- 脊椎疾患の適応症例が拡大し、国内における脊椎固定器具製品の販売拡大につなげる



ODEV社製
【Vusion Ti3D ARC ケージ】

脊椎固定器具新商品【Lynx α プレート】



【Lynx α プレート】販売開始(2022年8月)

- 脊椎内固定器具、頸椎椎弓形成術用プレート
- 椎弓をプレート及びスクリューで固定するにあたり、従来の頸椎椎弓形成術用金属プレートには無いロッキングスクリューシステムと特徴的なプレートデザインを採用することにより、手技的に簡便で強固な固定を提供し、手術時の操作性と安全性の向上が期待できる
- 頸椎椎弓形成術における治療領域にLynx α プレートを投入することで、適応症例が拡大し、脊椎固定器具製品の販売拡大につなげる



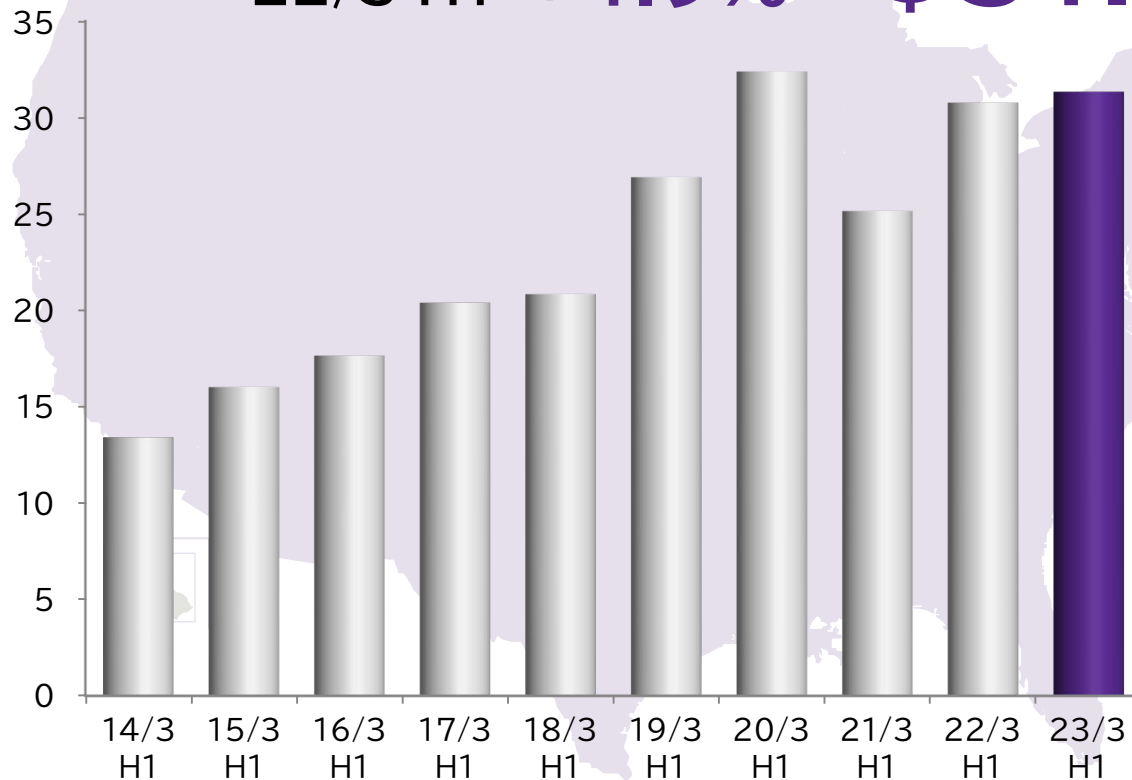
ACTYPower社製
【Lynx α プレート】

米国売上



(Million of dollars)

22/3 H1 +1.9% **\$31.3M**



【プラス要因】

- 前年から継続して拡大した顧客基盤の寄与による症例数増加

【マイナス要因】

- サプライチェーンの問題により新規顧客との取引開始を一時的に延期
- 高齢ドクターの引退
- 既存顧客医療スタッフ不足
- 競合他社の新製品投入による競争激化

米国売上【人工関節・製品別】



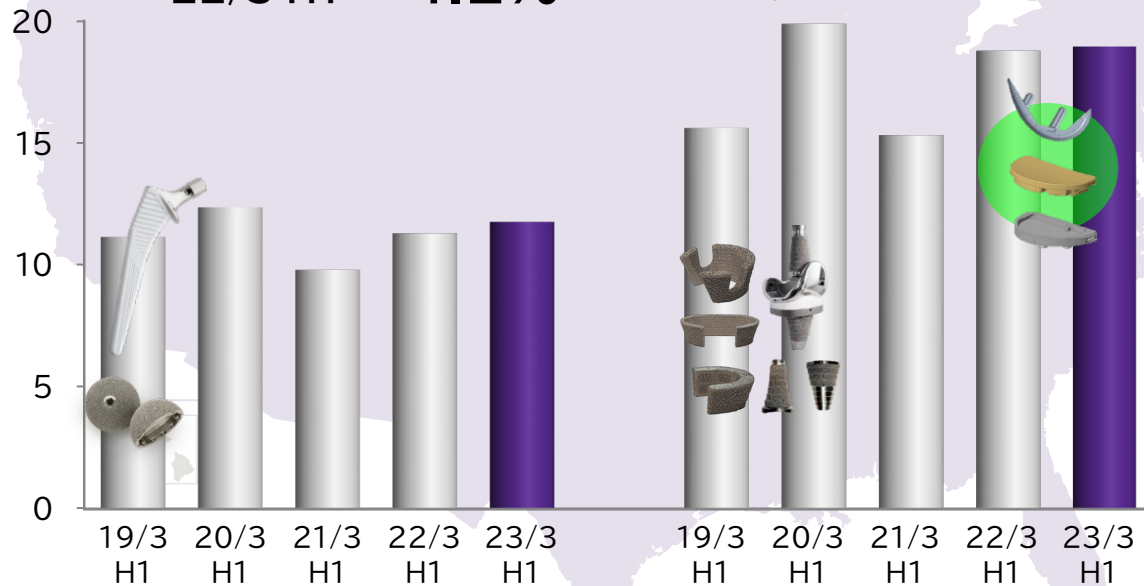
(Million of dollars)

人工股関節【Hip】
\$11.7M
22/3 H1 +4.2%

人工膝関節【Knee】
\$18.7M
22/3 H1 +0.9%

成長率

股関節 > 膝関節



<人工膝関節>
他社のロボット手術による人工膝関節置換術を選択
(大口ユーザー1名)

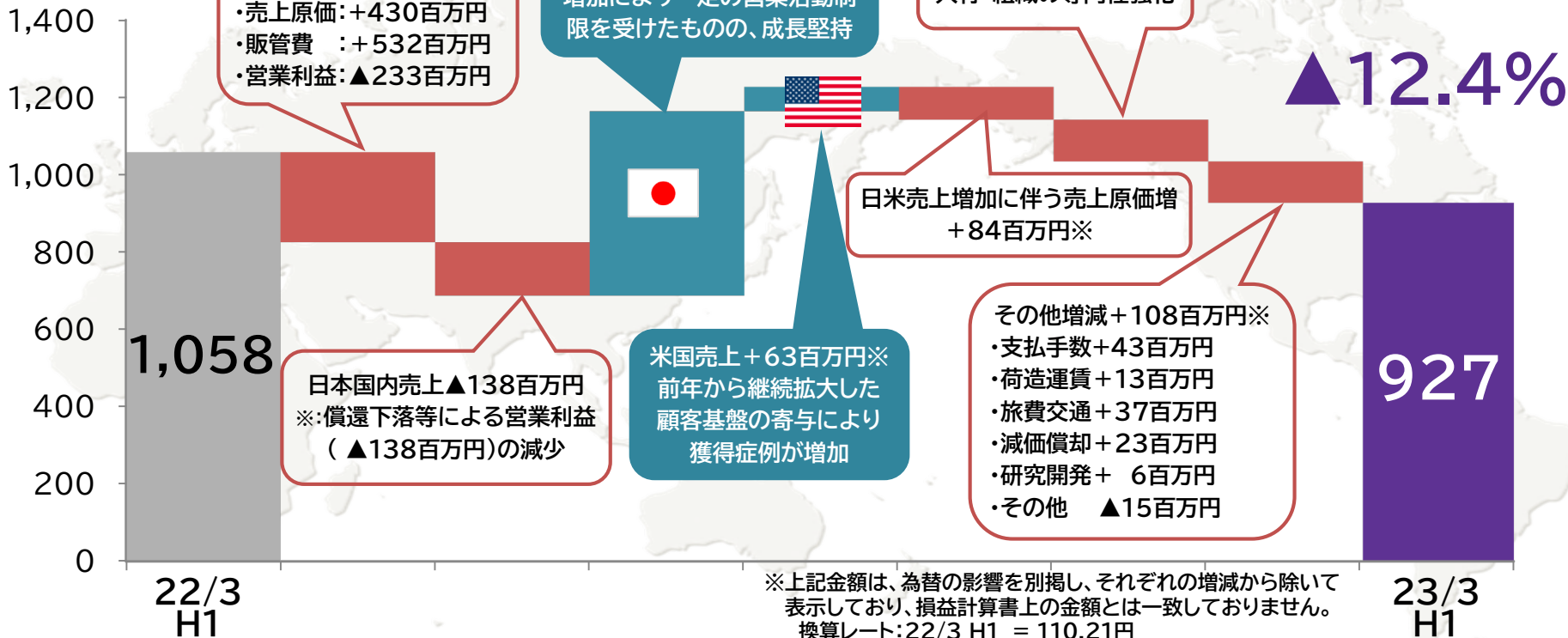
人工膝関節新製品販売開始

Balanced Knee System Uni
(2022年1月)

※DePuy Synthes 社向け「KASM」販売等除く

前年同期営業利益比較分析

(Millions of yen)



※上記金額は、為替の影響を別掲し、それぞれの増減から除いて表示しており、損益計算書上の金額とは一致していません。
換算レート:22/3 H1 = 110.21円
23/3 H1 = 133.47円

第2四半期業績予想値差異

(Millions of yen, %)	23/3,H1		当初予想値比増減		23/3,H1	
	実績	売上比	増減額	増減率	当初 予想値	売上比
売上高	9,989	100.0	↓ ▲210	▲2.1	10,200	100.0
営業利益	927	9.3	↓ ▲172	▲15.7	1,100	10.8
経常利益	916	9.2	↓ ▲133	▲12.7	1,050	10.3
四半期純利益※	721	7.2	↑ +21	+3.1	700	6.9

※親会社株主に帰属する四半期純利益

プラス要因

- 日本
 - 注力製品の販売拡大による売上高増加
- 米国
 - 前年から継続して拡大した顧客基盤の寄与による症例数増加 (ODEV社主催セミナー(UHKAS)で獲得した顧客への販売)
 - 円安(128円⇒133円)による円ベース売上高増加

マイナス要因

- 日本
 - 円安による売上原価上昇、売上原価率悪化
- 米国
 - サプライチェーン問題に起因する新規顧客への販売延期、USDベース売上高未達
 - 円安による米国費用の増加
 - 競合他社による人工股関節新製品投入

【修正後通期業績予想】連結損益計算書

(Millions of yen , %)	23年3月期		前期比増減		22年3月期	
	予測値	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	21,800	100.0	+2,606	+13.6	19,193	100.0
売上原価	7,450	34.2	+1,245	+20.1	6,204	32.3
販管費	12,350	56.7	+2,022	+19.6	10,327	53.8
営業利益	2,000	9.2	▲661	▲24.9	2,661	13.9
経常利益	2,050	9.4	▲541	▲20.9	2,591	13.5
当期純利益※	1,450	6.7	▲684	▲32.1	2,135	11.1

※親会社株主に帰属する当期純利益

【修正後通期業績予想】主要品目別連結売上高

(Millions of yen , %)	予測値	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内売上	13,100	60.1	+691	+5.7	12,409	64.7
人工関節	4,920	22.6	+201	+4.3	4,719	24.6
骨接合材料	4,370	20.0	+255	+6.2	4,115	21.4
脊椎固定器具	3,440	15.7	+315	+10.1	3,125	16.3
その他	370	1.7	▲78	▲17.4	448	2.3
米国売上※1	8,970	41.1	+1,900	+26.9	7,070	36.8
人工関節	8,940	41.0	+1,896	+26.9	7,044	36.7
脊椎固定器具	30	0.1	▲4	+15.4	26	0.1
売上控除前小計	22,070	101.2	+2,591	+13.3	19,479	101.5
売上控除	▲270	▲1.2	+16	+5.6	▲286	▲1.5
合計	21,800	100.0	+2,607	+13.6	19,193	100.0
自社製品売上	17,710	81.2	+2,269	+14.7	15,441	80.5
USDベース※2	63,572		+932	+1.5	62,640	
※1 換算レート(円)	141.10		28.22		112.88	

(上期実績:133.47、下期想定:150.00)

※2 Thousands of dollars

通期業績予想値(前回)対比

(Millions of yen, %)	23年3月期		当初予想値比増減		23年3月期	
	修正後予想値	売上比	増減額	増減率	当初予想値	売上比
売上高	21,800	100.0	↓ ▲200	▲0.9	22,000	100.0
営業利益	2,000	9.2	↓ ▲800	▲28.6	2,800	10.8
経常利益	2,050	9.4	↓ ▲650	▲24.1	2,700	10.3
当期純利益※	1,450	6.7	↓ ▲400	▲21.6	1,850	6.9

※親会社株主に帰属する当期純利益

プラス要因

- 日本
 - 日本国内において円安による為替差損益などの経常利益増加、受取補償金や事業損失引当金戻入額等の特別利益計上による当期純利益増加
- 米国
 - 円安(128円⇒150円)による円ベース売上高増加

マイナス要因

- 日本
 - 円安による仕入れ原価上昇、売上原価率悪化
- 米国
 - 既存顧客の医療スタッフ不足による症例数減少、競合他社による人工股関節新製品投入による販売競争、大口ユーザー(1名)が他社ロボット手術による人工膝関節置換術を選択→米国売上高減少
 - 米国売上高の下方修正、インフレによる物流費等の上昇、円安による米国費用の増加による営業利益減少

下期の販売戦略

売上高拡大による営業利益増を目指す

下期の販売戦略

- 日本市場における注力製品の販売強化
 - ・ 治療効果を意識した営業活動の展開
 - ・ 新規顧客の獲得
 - ・ 既存顧客のリピート率向上
- 米国市場における新規顧客への販売展開
 - ・ 延期した新規顧客との取引開始
 - ・ 新規導入PSI※1による人工膝関節の販売強化
 - ・ OMG※2プログラムの展開
 - ・ 地域別セミナー強化

事業基盤拡大の重点施策

「MODE2023」(22.3月期～24.3月期)

- ① 海外ビジネスの拡大
 - 北米2桁成長の継続
- ② 開発・調達力の強化
 - ・ 新規性、競争優位性
 - 高付加価値製品商品・工具・サービス等の調達・開発の強化
- ③ 人材・組織の専門性強化
 - ・ 非営業職における専門性の強化
 - 戦略実行体制強化のための人材投資
- ④ デジタル化の推進
 - ・ IT、DXの活用
 - 術前計画・手術支援システム、サービス等、医療従事者への高付加価値サービスの開発。社内業務効率化におけるDX化

※1 Patient Specific Instruments:3Dデータで膝関節の状態を解析し、患者様の個人の形状に応じたオーダーメイド方式の人工膝関節置換術

※2 ODEV Meetings and Greetings:ドクターとの信頼関係の構築を目的としたODEV社見学セミナー

Topics① 国連グローバル・コンパクト(UNGC)への署名



国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名 (2022年6月23日付で参加企業として登録)

【国連グローバル・コンパクト署名証明書】



国連グローバル・コンパクト本部 WEB サイト(英語)
(<https://www.unglobalcompact.org/>)

Topics② TCFDに基づいた情報開示(GHG排出量削減)



当社の気候変動への対応をマテリアリティの一つとして捉え、気候変動が事業に影響するリスク・機会への理解を深化させ、スコープ1、2の温室効果ガス(GHG)の排出量削減に取り組みます。

② 気候変動に伴うリスクと機会

対象範囲：国内のみ(当社単体)

時期：短期(1年以内)、中期(1年超から3年以内)、長期(3年超)

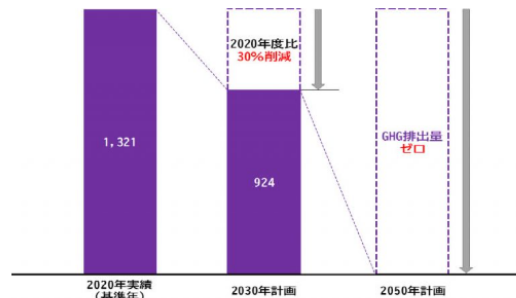
影響度：小(0.5億円以内)、中(0.5億円超～2億円)、大(2億円超)

分類	内容	時期	影響度	対応方針		
リスク	移行 政策規制	炭素税の導入によるエネルギーコスト・調達コストが増加するリスク	中期	小		
		GHG削減規制の強化に伴う設備のリプレイス等による設備投資コストが発生するリスク	短期～長期	小		
	評判	気候変動対応に関する情報開示の遅れによって株価への影響が発生するリスク	短期～中期	小	エネルギー効率の継続的な改善	
		自然災害による建物・設備・在庫への被害、操業停止及びサプライチェーンの寸断により物流遅延や機会損失が発生するリスク	短期	大	再生可能エネルギー導入 関係する法規制等の遵守	
	物理	急性	気温上昇による感染症の増加に伴い、医療体制の機能が低下・停滞し売上が減少するリスク	短期～長期	大	環境データの積極的な開示
		慢性	気候変動による感染症の増加に伴い、医療体制の機能が低下・停滞し売上が減少するリスク	短期～長期	大	環境データの積極的な開示
機会	資源効率	エネルギー効率向上によるコスト削減	短期～長期	小	環境に配慮した製品開発等	
	評判	積極的な情報開示による企業価値向上	短期～中期	小	BCP(事業継続計画)対策強化	
	製品・サービス	商品センターサテライト化(物流リードタイム短縮)による需要拡大	短期～長期	小	定期的なリスク・機会の見直し	
		環境負荷低減に貢献する製品・医療工具などの提供等	長期	大		
	レジリエンス	在庫品の分散保管による製品供給の安定化	短期～長期	小		

4. 指標と目標

当社は、気候変動における指標を温室効果ガス(GHG)の排出量と定め、2020年度のスコープ1、2におけるGHG排出量を基準とし、国内における2030年度の削減目標を2020年度比30%削減、2050年度には「GHG排出量ゼロ」にすることを目標として掲げています。

(国内) スコープ1.2 GHG排出量：t-CO₂



国内の各拠点における省エネ推進、再生可能エネルギー由来の電力調達、電気自動車の段階的導入など、GHG排出削減の取組みを計画的に実行し2050年のGHG排出量ゼロを目指します。

当社ホームページ【トップ > サステナビリティ > TCFD提言への対応】
<https://www.unglohttps://www.jmdm.co.jp/sustainability-action/tcdf/>

Topics② TCFDに基づいた情報開示(リスクと機会)



自然災害による物流遅延や機会損失の発生をリスクとして捉えており、その対応として在庫の分散保管、商品センターのサテライト化を推進することでリスクを低減し、緊急手術対応など新たな機会にも対応すべく事業活動を推進します。

分類			内容	時期	影響度
リスク	物理	急性	自然災害による建物・設備・在庫への被害、操業停止及びサプライチェーンの寸断により物流遅延や機会損失が発生するリスク	短期	大
機会	製品・サービス		商品センターサテライト化(物流リードタイム短縮)による需要拡大	短期～長期	小
	レジリエンス		在庫品の分散保管による製品供給の安定化	短期～長期	小

対象範囲：国内のみ(当社単体)

時期：短期(1年以内)、中期(1年超から3年以内)、長期(3年超)

影響度：小(0.5億円以内)、中(0.5億円超～2億円)、大(2億円超)

当社ホームページ【トップ > サステナビリティ > TCFD提言への対応】

(<https://www.unglohttps://www.jmdm.co.jp/sustainability-action/tcfd/>)

Topics③ 中国事業の状況



WOMA (Changzhou Waston Ortho Medical Appliance Co., Limited) (常州華森奥斯欧医療機器有限公司)

【販売】

- ODEV社製(米国製)BKSで中央政府集中購買入札に応札し、サプライヤー認定
2021年9月から2年間の販売権を獲得

【販売体制強化】

- 12代理店と契約締結済(2022年9月末)

【薬事承認】

- WOMA社製(中国製)BKSの薬事承認取得に向け、準備中(2023年)

【医療工具の中国製造プロジェクト】

- 製造コスト削減のため、WOMA社製医療工具の試作開始



企業概要

【所在地】

- 中華人民共和国江蘇省常州市

【代表者】

- 胡仁民

【事業内容】

- 人工関節製品の輸入・開発・製造・販売

【資本金】

- 10 百万 US ドル

【出資比率】

- WASTON社60%、ODEV社40%

Topics④ オーストラリア事業の状況



2022年3月期に関連する事業損失は取り込み済みであり、2023年3月期の通期連結業績に与える影響は軽微

Ortho Development Pty Ltd.

- 
- 2019年4月に米国子会社Ortho Development子会社として設立。
 - 「海外ビジネスの拡大」の戦略成長領域に掲げ、オーストラリアでの販売を展開する予定でしたが、Covid-19の影響もあり、薬事承認取得に要する時間が今後更に複数年必要となるなど同市場への再参入時期を合理的に見通せない状況と判明。2022年9月22日付で同社清算を決議。

最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて、医療に貢献する



日本エム・ディ・エム

JAPAN MEDICAL DYNAMIC MARKETING

お問い合わせ先

株式会社日本エム・ディ・エム IR室

E-MAIL

ir@jmdm.co.jp

IRサイト

<https://www.jmdm.co.jp/ir/>